

平成 26 年度 大阪府立茨木工科高等学校（全日制の課程）第 3 回学校協議会議事録

日時 平成 26 年 3 月 3 日（火）
15:00～16:30

場所 茨木工科高等学校 会議室

出席者 委員長 1 名、委員 4 名、校長、教頭（学校協議会事務局長）、事務部長、
首席 2 名（工学系主任、第 3 学年主任）、教務主任、生徒指導主事代理、
進路指導主事、特別活動指導部主任、機械系主任、電気系主任、
環境化学システム系主任、初任者 1 名

協議

1．開会挨拶（校長）

2 月 23 日に前期入学者選抜を行い、昨日合格者の発表をした。

詳細については、後で担当者から報告をさせるが、工学系大学進学専科は 40 名単独募集のところ、21 名の志願にとどまった。総合募集の専科の志願者で不合格になった者で、大学進学専科を第 2 志望にしている者が 1 名おり、その 1 名を大学進学専科の合格者として補い 22 名を合格とした。40 名には 18 名足りないため、後期の入学者選抜終了後、二次選抜を実施することになる。その機会にどのくらいの志願者があるかは、過去にほとんど経験がなく、全く予想できない。一方、総合募集の専科は 280 名募集のところ、301 名の志願があり 1.08 倍の倍率となった。昨年の 1.27 倍に比べると、志願者は大幅に減っており、来年度の入学者選抜一本化を前に、非常に心配している。

今週末の 3 月 6 日には、第八期生の卒業証書授与式を行う。委員から 4 名の出席をいただく予定である。よろしくお願ひしたい。

今年度、3 回目の学校協議会であり、この 1 年間の学校がやってきたことの成果等を報告させていただき、忌憚のないご意見をいただき、学校の改善につなげていきたいと思う。どうぞよろしくお願ひしたい。

2．協議委員長あいさつ

PDCA サイクルの確認をさせていただき、また、この会の信念は地域の方々、保護者の方々の意見を学校に取り入れ、学校の発展に寄与するということである。忌憚のない意見を行い、少しでも茨木工科高校の発展に寄与していく。大学進学専科で定員が割れたことは残念であり、何か原因があるのではと考えられる。報告を聞き改善点を検討していきたい。

3．出席者紹介

協議会委員、学校事務局員がそれぞれ自己紹介。

4．平成 26 年度 本校教育活動の結果報告について協議

（1）平成 26 年度の学校評価（自己評価）について

（校長）今年度の学校経営計画について学校としての自己評価を教育委員会に提出した。年度末にならないと確定しない部分もあるため、空欄や暫定の数字が入っているところがある。

1 枚目の下の学校教育自己診断の結果と分析、学校協議会から意見については、今日の議論を踏まえ、記入させていただく。

学校協議会からの意見の第1回、2回の内容については、協議会委員からいただいたご意見、質問を分析し、学校協議会からの提言という形にしている。必ずしもこの通りの文言があったということではないが、理解をいただきたい。それぞれの項目の後ろの、 、 は達成度合いを示している。空欄になっている部分は、年度末にならないと確定しない項目で今後、確定次第記入する。

本年度の取組内容及び自己評価より特に力を入れていた部分について補足説明をする。

1. 「確かな学力」の育成

(1) 基礎的・基本的な学力の定着

ア 少人数授業・研究授業等の取り組みの自己評価について、生徒のアンケートによると満足度が75%程度となっている。評価指標、言い換えれば目標は80%で、概ね達成できていると考えている。

イ 中退率改善をめざす取り組みについて、評価指標は中退率を3%改善(平成25年度9.9%)としたが、今年度は1年生の学習状況が非常によく、昨年は特に留年、退学者が多かったが、かなり改善される見込みである。そのため、機が不足することが予想され、委員会に特別に予算をつけてもらい机を42脚を急遽買い足した。

2. 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 規範意識を身につけさせる

ア 遅刻数削減の取り組みの項目であるが、遅刻数前年度比20%削減をめざしており、12月未段階では、20%減であるが、年明けから寒さもあり、遅刻が増加する傾向にあり20%達成は厳しいかも知れない。

身だしなみ、携帯電話指導については指導カード制を導入し、一定の成果をあげている。

3. 自立・自己実現の支援

(1) キャリア教育・職業体験教育の充実

ア インターンシップ等への取り組みの項目であるが、参加生徒50名を目標にしたが、25名の参加にとどまった。昨年は17名であったので、これでも少し改善されたと考えている。

(2) 資格取得

ア 資格取得や就職試験に向けた全学的な協力体制の推進であるが、資格取得については、電気系2年生に全員受験させている第二種電気工事士の結果については、合格率91%とすばらしい成果をあげた。

就職指導についてはこの後、担当から説明をさせるが、3名の生徒が決まっていない。受験先を探すのがなかなか困難な状況があるが、最後までねばり強く指導し、例年のように100%を達成したい。一次試験の合格率については、目標の65%を越える71%であったが、工科高校の中では低い方であり、まだまだ改善の余地があると思っている。

(3) 進学希望生徒への支援

ア 工学系・大学進学専科における取り組みであるが、土曜日にも開講している大学連携授業など、一定の成果をあげている。ベネッセの基礎力診断テストを全学年で実施しているが、大学進学専科については、第2回の結果を見ると、学習到達ゾーンSからDまでであるが、Bランク以上、全国レベルの大学、就職ができるというランクに7名おり、他クラスより圧倒的に多い数になっている。このような結果から、この1期生については、一定の力のある生徒が入学していると考えている。授業担当者によると成績層の高い生徒の間で競い合い、切磋琢磨する様子が窺われ、また、理解の遅い子を教えるという動きも見られ、雰囲気がいよい。

4.地域連携・地域貢献活動の取り組み

(2)「ものづくり」による地域貢献活動

ア 地域連携・地域貢献活動の取り組みの推進であるが、非常に順調に目標を達成することができている。アルミ製朝礼台の製作・寄贈については、今年も3台製作し、茨木市立春日丘小学校、葦原小学校に寄贈し、1台は材料費を負担してもらい府立桜塚高校に贈り、大変喜ばれた。春日丘小学校では贈呈式を設定していただき、その様子が茨木市のHPに掲載されている。

この資料については、年度末までに確定するデータをすべて落とし込み、教育委員会へ提出したいと考えている。以上が、今年度の計画、学校評価の概要である。

来年度の計画については、現在作成中である。基本的には、今年度の計画を踏襲している。今日の議論も踏まえ、年度末まで修正を加え、来年度1回目の協議会に呈示する。

(委員長) 質問はないか。

(委員長) 3番の自立・自己実現の支援についてインターンシップの目標としていた50名はどこから出た数字であるのか。

(校長) 過去に一番多かった年度の参加者が42,3名であったため50名としている。

(委員長) 参加した生徒の感想はどうだったのか。就職に有利、不利はあるのか。

(校長) 参加した生徒の満足度は高い。就職に直接影響するものではないがモチベーションを上げる効果があると考えている。

(委員長) この目標値は下げるのか。

(校長) 来年度も下げるつもりはない。

(委員長) 授業公開クラス数についてよくない評価をしているがどうなっているのか。

(校長) 公開数の目標を50以上としていたところ30回であったため低い評価とした。

(委員長) 実施していることについて問題ないのか。

(校長) 実施回数が少ないだけで問題はない。

(委員長) 大学連携は活発であるのに志願者につながらないのは何故なのか。広報活動が足りないのか。

(校長) 実施した様子は学校ホームページ、パンフレットなどに掲載している。中学校、中学生、保護者へ理解が進んでいない。中学校に訪問した際に中学3年生の段階で工学系の大学に進学したいと明確な目標を持っている生徒は少ないと聞いた。

(委員長) 中学3年生では大学に進学したいと考えていても理系、文系を決めている生徒が少ないということか。

(校長) そのように聞いている。普通科高校を希望している層で本校の大学進学専科に取り込みたいができていない。工業志向で大学の工学部へ行きたいという生徒は少ない。

結果(進路実績)が出ていないため中学生の保護者へ進学専科を進めることが難しいと聞いている。

(2) 工学系大学進学専科について

(工学系主任) 今年度からスタートした専科であるが、一番力を入れた内容は大学連携の授業である。

1年間の最後に生徒へアンケートを取ったが3分の2の生徒は非常に参考になったと回答している。大学と連携した回数は適当であり、内容も満足しているという回答である。保護者と進学について話をしている、塾に通っているという生徒は少ない。全体として、ほぼ満足していると考えられる。残念ながら全員が工学系の大学に進学したいと希望していないため不満な回

答をしているものもある。2年生では大学のセミナーに参加することを計画している。

(委員長) 質問はないか。

工学部にも色々な研究室、学科があるが生徒にはどのような紹介をしているのか。

(工学系主任) 1年生の目標は大学とはどのようなところなのかを知ることであり、大阪工業大学の大宮キャンパスでは本校にも設置されている系に近い学科を紹介した。大阪工業大学の枚方キャンパスでは情報やソフトウェアについての研究していることを紹介し、大阪電気通信大学の四条畷キャンパスでは医療工学について紹介した。計画として色々な学科を体験させることに重点を置いていた。2年生では生徒が個々に希望する学科のセミナーに参加させる。

(3) 平成 26 年度生活指導部の報告について

(生活指導主事代理) 身だしなみ指導について違反カードを導入した。色々な身だしなみ指導をまとめる意味も込めていた。今までは単発の指導に終わっていたものが継続的な指導にすることができた。夏服のカッターシャツの中に着るアンダーシャツを白色に変更した。冬はパーカーなど帽子付の服を着ることのないように指導を行った。頭髪についても違反カードを数えることになると抑止することができるようになった。

携帯電話についても違反カードを発行した。教員によって指導のばらつきがあったが、統一した指導を行うことができた。

遅刻数は 20%減少した。2年前に入室許可書を発行するようになり、学年が進行するにつれ指導が行き届いた生徒が増えてきている。

(委員長) 成果が上がっている様子だが質問などはないか。

(4) 8 期生 (平成 27 年 3 月卒業予定) の進路について

(進路指導主事) 進学、就職ともにほぼ決まりつつある。就職に関して 3 名が未決定であるが、2 名は受験先を決めている。1 名は進学を予定していたものが最近就職希望に変わった。進学では四年制大学を希望していた生徒の内、1 名が合格せず浪人することになった。また、専門学校についても浪人する生徒が 1 名いる。本年度の進学希望者と学校紹介による就職希望者の割合は 22%、73%となっており例年と大きく変わらない数値となった。縁故就職や自己開拓による就職は 5%であり、学校紹介による就職に加えると約 8 割の生徒が就職している。四年制大学に進学する生徒のほとんどが工科高校推薦、指定校推薦、AO 入試での合格である。短期大学の希望者はいなかった。高専については大阪府立大学工業高等専門学校に 2 名編入する。1 次試験の内定率は 71.3%で近年にない好調な数値となった。来年度も景気は維持できるだろうと考えている企業が多く、本校に届く求人票の数も期待できる。内定企業一覧から見られることは、最近求人票をいただいていた大手企業からの求人を活かし、内定をいただくことが多かった。まだ未決定である生徒は卒業を迎えることになるため、今後はハローワークと連携を取りながら進める。

(委員長) 進路状況の報告であったが何か質問はないか。

残りの 3 名について保護者から要望はあるのか。

(進路指導主事) 保護者からの要望は特にない。以前より学校紹介の就職を希望していた 2 名はほぼ内定をいただける予定である。1 名は製造業などとは違う就職先を希望しているためハローワークと連携をとる。

(委員長) 卒業後どのくらいまで指導を継続するのか。

(進路指導主事) ハローワークのシステムとして新卒生徒に対して 6 か月間は他の就職活動をする方と違う支援をいただくことができる。その間には希望進路を実現したい。

(委員長) 1 次試験の内定率が好調であったこと、最終の内定率 100%の維持という点について、来年度の目標はどのように設定するのか。

(校長) 来年度の目標について、工科高校の就職内定率 100%は維持すべきことであるが、離職率についても考えていかなければならない。本年度、4 期生の電気系、環境化学システム系の離職率を調査し 30%程度であった。普通科の卒業生の離職率は 40%を超えるため工科高校の卒業生は定着しやすいと考えている。工科高校の中では離職率が 10 から 20%程度の学校もある。

(委員長) 本年度効果のあったことは継続していただきたい。

(5) 平成 26 年度 資格取得実績状況

(首席) 本年度改善された項目は第二種電気工事士、危険物取扱者などが挙げられる。また、昨年度は取得していなかった資格として酸欠危険作業特別教育修了証と粉じん作業特別教育修了証がある。これらの資格は夏休みに外部から講師を招き無料で校内講習を受けさせた。対象を 2, 3 年生としたため来年度は現在取得していない 2 年生と 1 年生となり、有料となるため取得者数は減ると考えられる。コンクールやコンテストの参加としては自転車競技部が毎年全国大会に出場しており、SST 部が缶サット甲子園で和歌山大会 3 位、全国大会に出場した。

(委員長) 質問などはないか。

(6) 平成 26 年度 クラブ・同好会の活動実績について

(特別活動指導主事) 自転車競技部が全国大会に出場した。ハンドボール同好会が次年度、部への昇格をめざしている。写真部がコンクールで優秀賞、美術部は奨励賞をいただいた。SST が缶サット甲子園で全国大会に出場した。

(委員長) クラブの入部率は目標達成できたのか。

(校長) 本年度は 54%であった。目標は 50%であったのでクリアすることができた。特別な指導をしたわけではない。

(7) 学校教育自己診断について

(首席) 生徒は工業高校の特色に高い理解を示している。保護者のアンケート結果から「子どもを入学させてよかった」の項目が 87.3%と高い数値となっている。教員の結果から「レベルに応じた授業を心掛けている」の数値が高くなっている。数値が下降した項目としては「先生の指導には納得ができる」、「入学してよかった」が挙げられる。本年度、夏服のアンダーシャツを白色としたことや身だしなみ違反カードの導入など生徒の理解を得ることができていなかったと感じている。数値が上昇した項目として、保護者アンケート結果の「地震や台風などの場合の対応」や、「家庭連絡」が挙げられる。学校のホームページをリニューアルし、より分かりやすくしたことと学年や担任からの一斉送信メールが評価されたと感じている。教員のアンケート結果から「保護者の思いにこたえている」の数値が低くなっている。多忙に感じている教員が多く、保護者の思いや、生徒の思いにこたえ切れていないと感じているようである。

(委員長) 保護者とともに生徒を教育することは大事である。なにか質問などはないか。ホームページの更新は校長が行っているのか。

(校長) アップロードの確認やホームページのリニューアルに校長が関わっていたため、現在は全て行っている。また、ケータイ電話かパソコンまたはどの市区町村からホームページにアクセスしているのかなどの解析をすることができるため校長自身としてモチベーションが上がっている。平成 27 年度中の引き継ぎは考えている。

(8) 平成 27 年度入学者選抜

(教務主任) 総合募集の専科の志願者は 300 名、合格者は 280 名、倍率は 1.07 倍。工学系大学進学専科は 40 名募集のところ、22 名の志願者、合格者は 22 名、倍率は 0.55 倍であった。総合募集の専科を第 1 希望とし不合格となった生徒 1 名が第 2 志望の工学系大学進学専科で合格となっ

た。第2志望で合格した志願者は合格した専科の志願者として計算している。本年度は工学系大学進学専科を設置している全ての工科高校で、第1志望の段階では定員割れが起っていた。昨年度をピークに中学校を卒業する生徒数が減っていくこと、来年度の入学者選抜の方法が大幅に変更され本校は後期入学者選抜となるということでますます厳しい状況が見込まれる。

(委員長) 定員割れを起こした場合は何か指導が入るのか。

(校長) 3年連続で定員割れを起こすと統廃合の対象に挙げられる。

(教務主任) 教育委員会に報告書類として昨年度は定員割れを起こしていない。

(校長) 本年度は大学進学専科に関して定員割れである。

(委員長) 女子生徒の入学などは考えていないのか。化学など他の工科高校にない特色を持っているため生命科学などへの進学は考えることはできないのか。

(校長) 女子生徒の受験生を増やす方法を考えている。生命科学や医療、薬学への進路開拓など、できることがないか探っていく。

(委員) 本年度は私学志向が高まっていたと考えられる。中学校によってはクラスの半分以上が私学というところもあった。

(委員長) 広報活動などを含め来年度に期待している。

(9) 質疑及び意見交換

(委員長) 時間を過ぎているが、特に何かあれば受け付ける。

(委員長) 以上をもって協議を終了する。

5. 閉会の挨拶(校長)

課題等が山積しているが、指摘いただいた点について少しでも改善し、一歩ずつ確実に前進していきたい。引き続き本校のため、力をいただければ幸甚である。

6. 事務連絡(教頭)

来年度の学校協議会の予定について連絡